

イネ科通信 13

大泉緑地観察会(2012/10/26)より

オギとススキとチカラシバ

大泉緑地の水辺にオギが生えていましたのでススキと比べてみました。左側上は大泉緑地のオギ、中央は淀川のオギです。ススキの確認はきませんでしたので他の場所で撮ったススキの写真を使いました。



オギ (左)

水辺などの湿地に生える多年草で、地下に長くて太い根茎を伸ばし、大群落をつくります。ノギはあっても短く小穂の外まで伸びません。



ススキ (右)

山や平地の草原に生える多年草で、太くて短い根茎があり、稈は束生して大きな株となります。小穂の芒は長くて小穂の外まで出てきます。成熟するにしたがって芒の曲がり方は大きくなります。

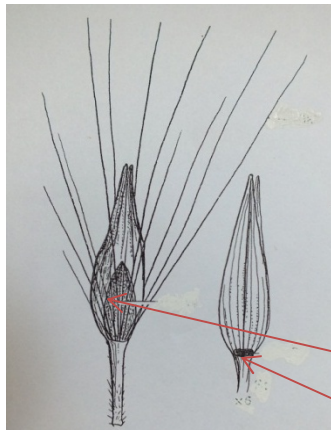


チカラシバ

大泉緑地のいたるところで群生していました。

子供の頃、力任せに引き抜こうとしましたが、無理でした。

左の写真は大泉緑地の池畔で撮ったもので、右の写真は他の場所です。



左端の写真はチカラシバの花序の一部です。その中の小穂のスケッチが左図です。チカラシバは2小花からなり芒はありません。小穂の下から総苞毛が輪生しています。右側は総苞毛を取り除いたものです。第1小花は退化、第2小花は稔性ですのでエノコログサ型です。

第2包穎

第1包穎

上図は日本イネ科図譜より引用しました